

2019年度

西南学院大学 ボランティアガイドブック

Seinan Gakuin University Volunteer Guidebook



西南学院大学 ボランティアセンター

目 次

はじめに

センター長挨拶	1
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	2
ボランティアって、なんだろう？	3
ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）	4
ボランティア登録について	5
ボランティア活動の心構え	5

ボランティア活動

①ちょこボラ（ちょこっとボランティア）	6
②東日本大震災ボランティア	8
③九州北部豪雨ボランティア	9
④平成30年7月豪雨（西日本豪雨）ボランティア	11
⑤福岡で活動する被災地支援ボランティア	11
⑥海外ボランティア	15
⑦学生サポーター	17
⑧他機関連携	18
⑨学内ボランティア	21
⑩学外ボランティア	24

学生グループ活動（サークル紹介）

学生スタッフOPENの活動	27
印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について	28
活動室の利用について	28
学生ボランティア団体助成	29
（1）OPEN	29
（2）のびっこの会	30
（3）学生YM(W)CA	30
（4）手話サークル とびうめ	31
（5）ワークキャンプ部	31
（6）Think & Act	32
（7）西南FIWC 九州	32
（8）SIEC（西南国際教育協力隊）	33
（9）西南ラブ・グリーン	33
（10）Pao	34
（11）いと	34

そ の 他

社会福祉協議会（社協）	35
2018年度ボランティアセンター活動記録	36

はじめに



ボランティアセンター長 石森 久広

西南学院大学にご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心からお祝いし、歓迎いたします。これから始まる学生生活、友との出会い、師との出会い、学問との出会いの中で、豊かな時間を過ごしてください。

本学では、ボランティア活動を建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置づけ、学生・教職員等によるボランティア活動を支援・推進する部署としてキリスト教活動支援課の中にボランティアセンターがあります。ボランティアセンターは、さまざまなボランティアの情報を提供し、皆さんの相談に応じています。お弁当容器やペットボトルキャップ、古本や古切手などを提供する身近なボランティアから、学生サポーターで地域の小・中学校で活動するボランティアや重症心身障害施設の久山療育園でのボランティアもあります。

本学では、東日本大震災が発生した後から毎年継続して被災地支援活動をしており、昨年度は東北に4チーム18名の学生・教職員を送り出しました。また、2017年に発災した九州北部豪雨では、東北、熊本でのボランティア活動経験を活かし、福岡県、うきは市、北九州市立大学、久留米大学、NPO法人ANGEL WINGSと協働し、全国の学生ボランティア無料宿泊拠点及び情報共有・情報発信の拠点「うきはベース」を運営しました。この拠点をベースに全国約1,900名の学生たちが活動し、本学からも、日帰りを含めて446名の学生・教職員がこの活動に加わりました。さらに、海外に目を向けると、フィリピンで活動する海外ボランティア・ワークキャンプが2003年度から実施されており、今までに266名の学生・教職員が活動しました。他にもガイドブックに紹介しているボランティア活動のサークルもあり、皆さんの参加を心待ちにしています。学内だけでなく、学外からのボランティア依頼にも対応していて、多くの学生たちが活動しています。

ボランティアは、子ども・高齢者・地域・環境・国際交流など、幅広い分野で展開されています。大学在学中にボランティア活動をすることで、同年齢だけでなく、乳児から高齢者まで、多くの幅広い年齢の方々や仲間と出会い、社会・地域・施設・行政・企業などとの出会いがあり、視野が広がることでしょう。自分に合う活動を見つけることで、自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面と出会えるかもしれません。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。ボランティアセンターは、皆さんをいつも応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

ボランティアセンターは、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員等によるボランティア活動を支援・促進することを目的としています。センター内には、職員が常勤していますので、ボランティアをするのが初めての方や迷っている方など、どなたでもお気軽にご相談ください。

- 【場 所】 ボランティアセンター（キリスト教活動支援課）
1号館2階 エレベーター横
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335
E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp
H P : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>
Facebook : <https://www.facebook.com/seinanvoc/>
- 【開室日】 通常期間 月～金 8:45～17:20
(長期休暇中や行事などで閉室場合があります)
- 【休室日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、
年末年始、その他大学が特に定める日
- 【サポート】 ボランティア活動に関する相談、情報交換会の開催、
ボランティア情報・関連する講演会やイベント情報の発信、
ボランティアグループとの懇談会



【ボラセンが企画するボランティア】

- ・東日本大震災ボランティア
- ・熊本地震ボランティア
- ・九州北部豪雨ボランティア
- ・緊急災害ボランティア
- ・他機関との連携企画
- ・学内ボランティア
- ・海外ボランティア
- ・学生サポーター
- ・久山療育園ボランティア
- ・ちょこっとボランティア
- ・その他

【学内外からの主な依頼】

- ・学内の各部署が募集するボランティア
- ・イベントのお手伝い（障がい者施設・高齢者施設・学内など）
- ・リサイクル、ゴミ拾い
- ・地域活性化活動（商店街など）
- ・街頭募金活動
- ・その他

ボラセンからメッセージ

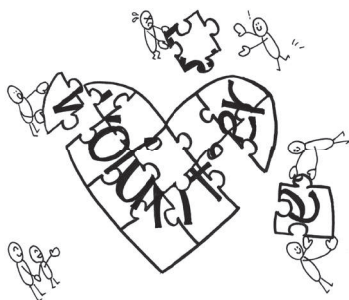
ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽にたずねてきてください。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！



ボランティアって、なんだろう？

高齢者や障がい者、困ってる人の手助け？ 善意あるお手伝い？
どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何だかすごいことの
ようで、想像すればするほど、難しそう・・・
なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？
バスの中で自分の席の前にお年寄りが・・・
『席をゆずろうかな、どうしようかなあ・・・』と
ソワソワした経験。
荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・
『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。



“ほっとけない” “あの人の為に何かしたい・・・” “そんな、くすぐったいような、もどかしい
ような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える
“ボランティアの種”を大事にして、育て、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。
“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同時
に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

ボランティア活動の4つの原則

自発性・自主性

～「やりたい！」想いと初めの一歩を大切に～

ボランティアは、自分の“やりたい！”想いを形にして始める活動であり、他からの強制や義務で行う活動ではありません。決めるのは自分自身なので、積極的に行動できます。自分の想いを活動として表現するので、人の心に働きかける力をもっています。

無償性・無給性・非営利性

～お金では買えない目に見えない心の財産～

ボランティアは、活動を通して、お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、気づきを得ることができます。個人的な利益や金銭的な報酬を期待するものではありません。
(ただし、交通費や食費、材料費などの実費弁償は、有償とはみなしません。)



先駆性・開拓性・創造性

～アイデアから、より良い地域や社会を創ろう～

ボランティアは、今日の前にある必要なことに、すぐ手を差し伸べ取り組むことができます。今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動です。結果的に先駆的で開拓的な分野や活動を担うことになります。

社会性・公益性・連帯性

～みんなのために、みんなで支え合おう～

ボランティア活動は、一人ひとりの人間を大切にすると共に、だれもがいきいきと豊かに暮らせる社会を目指しています。社会にはさまざまな課題があり、すべての課題を自分一人で解決することは難しいです。多くの人と出会い、つながり、協力しあい、学び合って、共に課題を解決する活動です。

ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）

①ボラセンに行ってみよう！ （1号館2階エレベーター横）

ほとんどの人が、大学生になって初めてボランティアをしています。ボラセンでは、初めての人を対象に講座なども開催しているので、自分に合う活動や講座を一緒に探しましょう。



※ボランティア登録をしよう！
（5ページ参照）



②自分にあうボランティア活動に参加してみよう！

参加したい活動が見つかったら、各自で団体に申し込みましょう。いよいよ、ボランティア活動の始まりです。申込後は、各自で大学生としての自覚と責任をもって参加し、急に参加できなくなった場合も、必ず自分でお詫びの連絡をしましょう。困ったことが起きたら、ボラセンへ相談してくださいね。

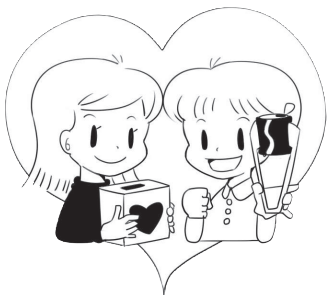


※ボランティア活動保険に加入しよう！
（24ページ参照）



③ボランティア活動について報告しよう！

活動が終了したら、ボラセンまで体験談をお寄せください。皆さんの体験談が、次にボランティアをする方への情報源として活用されます。



ボランティア登録について

ボラセンには、学内外から様々なボランティアの依頼があります。これらの依頼内容は、ポータルにアップしたり、ボラセンの掲示板に掲示しています。なお、ボランティア登録をされた方には、定期的にボランティア情報をMoodleからメール配信しています。ぜひ、次の方法で登録をしてください。

※ボランティア登録は、年間を通して受付をしています。

(登録料・会費などは一切かかりません)

【登録方法】

E-mail swvoc-vol@seinan-gu.ac.jp 宛に

タイトル「ボランティア登録」

本文に ①在学番号 ②氏名

をご記入の上、送信してください。

※メールは、在学番号のアドレスへ配信いたします。



《ボラセンのHPからも登録できます》

ボランティア活動の心構え

1、無理せず、背伸びせず、楽しく継続

ふだんの暮らしに支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2、最低限のマナーは守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任をもって活動先に連絡してください。突然、連絡が途絶えると、活動先は困ります！最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3、身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に、必要以上のアクセサリーは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4、秘密厳守（個人情報）

活動を通して知り得た個人情報は口外してはいけません。逆に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5、お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割に関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。



ボランティア活動

① ちょこボラ（ちょこっとボランティア）

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこボラ」をご紹介します。

(1)被災地を応援するボランティア

①災害支援金

被災地に災害支援金を送ろう！

本学では、災害支援金を募って被災地へ届けています。

東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨災害などの被災地支援金として送金 ほか

※寄付金控除の対象外です。

【口座】 西日本シティ銀行西新町支店
普通 1569416
「学校法人西南学院義援金口」

※本・支店窓口（ATMを除く）から振り込む場合は、振込手数料は不要です。



②お弁当容器の回収（災害支援金に協力できます）

お弁当容器を回収し、被災地に災害支援金を届けよう！

リリパック回収による払戻金が被災地へ送る災害支援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い（もしくは黒い）フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ！ 割れても大丈夫です！

弁当容器1個が10円の災害支援金として募金されます。

※生協、クロスプラザで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

- 1号館：2・3階エレベーターホール、
- 2号館：学生ホール、2階廊下、学術研究所1階ロビー、
- 西南クロスプラザ1階、西南会館…生協食堂、西棟1階ラウンジ



(2)ペットボトルキャップの回収

ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届けよう！

飲み終わったペットボトルのキャップは、回収ボックスへ！

ペットボトルキャップ約2000個のリサイクル対価が、一人分のポリオワクチン（約20円）に相当します。

※リサイクル対価は市況によって変わる場合があります。

【回収ボックス設置場所】

本館、1号館2階入口、1号館3・4・5階の休憩室、2号館2・3・4階、4号館1階、西南会館、体育館前、生協食堂、クロスプラザ、2号館学生ラウンジほか



(3) 寄付本★プロジェクト

自宅で眠っている不要本を寄付して、奨学基金へつなげよう！

不要となった古本などを寄付し、奨学基金へつなげるプロジェクトです！

【回収ボックス設置場所】

学術研究所、コミュニケーションプラザ各階ロビー、
法科大学院事務室内、1号館2階ボランティアセンター、
2号館1階学生ホール

※業者の回収は、原則、第1火曜日です。

《対象となるもの》

専門書～趣味の本までOK・書込みされた本もOK

CD・DVD・ゲームソフト

《対象とならないもの》

(書 籍) 百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ

(CD/DVD) ケースがない・サンプル・規格品番なし



(4) カンボジア支援 (文房具ほか)

SIEC(西南国際教育協力隊)の取り組みについて

カンボジア支援プロジェクトは、毎年3月と11月に年2回カンボジアに渡航して教育支援を行っています。日々の活動では寄付(赤白帽子、ノート、筆記用具etc)を募ったり、他大学と共同で会議を行ったりして、渡航が迫ると、運動会や授業の準備を行い渡航に備えています。現地では、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域の学校で運動会や授業を行っています。

【文房具回収ボックス設置場所】

ボランティアセンター前・西南会館・5号館心理学実験室前



(5) その他 (古切手・書き損じハガキ)

使用済み切手、書き損じハガキなどを福祉活動や発展途上国の支援活動に役立てよう！

①古切手 (使用済み切手)

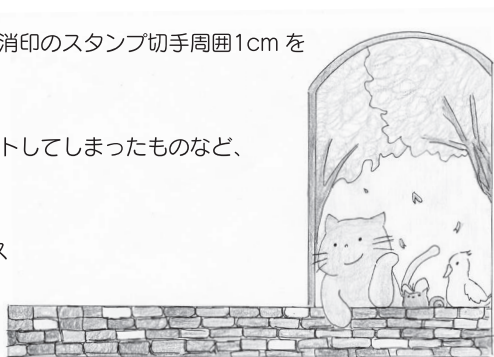
封筒やハガキに貼ってある切手を、消印のスタンプ切手周囲1cmを残して切り取り、回収ボックスへ！

②書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントしてしまったものなど、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボラセン前の備え付け回収ボックス



② 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日14時46分18秒に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらしました。現地の状況は変化していますが、今でもさまざまな支援が必要です。本学からも学生や教職員が、ボランティア活動を行っています。

8年間 延べ活動者 79チーム 629名

2011年度	参加者	9チーム	102名	2015年度	参加者	16チーム	92名
2012年度	参加者	10チーム	116名	2016年度	参加者	4チーム	42名
2013年度	参加者	17チーム	133名	2017年度	参加者	3チーム	39名
2014年度	参加者	16チーム	87名	2018年度	参加者	4チーム	18名

(1) 日本バプテスト連盟を通しての活動

2011年9月から、毎年実施している活動。現地の教会が交流されている岩手県の大槌町や宮城県石巻市牡鹿半島と一緒に活動しています。



神学部 神学科 徐 連月

ボランティアをする前に、色々悩みました。「つらい経験をした方々に対してどう寄り添ったら良いのか」、「何をすれば慰めになるか」... 疑問を持ったまま、足を東北に踏み出しましたが、現場を訪問し、現地の方々との交わりを持つ中で、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに慰めを一つにする。」の意味が分かるようになりました。今回の活動を通して、大きく学びました。

商学部 商学科 下田あゆみ

私が東日本大震災ボランティアに参加して感じたことは、テレビで見るのと自分の目で現地を見るのでは印象が全く違うということと、とても驚きました。テレビで見たときには、日本で起こっていることだと思えなかった津波の様子が、現地の方のお話を聴いたり被害があった場所を見たりすることで現実として迫ってきて、災害の恐ろしさを感じました。また、復興に向けて自分に出来ることはまだまだあるということに気づきました。このボランティアの経験を終わりにせずに、東日本を思い続け、多くの人に伝えていきたいです。

(2) 大学間連携災害ボランティアネットワーク（事務局：東北学院大学）

2011年9月から、毎年実施している活動。全国130の大学が連携してネットワークを築き、全国から集まった学生たちと一緒に活動します。「夏季集中ボランティア2018」では、気仙沼・石巻市雄勝町・亘理郡山元町・石巻市牡鹿半島の4つのプロジェクトのうち、雄勝町と山元町での活動に、参加しました。活動内容は、多岐にわたります。毎年、異なります。



文学部 英文学科 岡田笑奈

やってみないと分からないことは多くありますが、ボランティアもその一つだと思います。今回私が参加した雄勝町への復興支援ボランティアでは町の方々のお話を聞き、被災地を実際に見て考える機会となり、テレビの中の世界のように感じていた震災の現場がより現実味を持って自分の目の前に現れました。震災から時間が経過した町の人口減少などの問題点を知り、ボランティアは依然として継続的に必要とされていることを学びました。また、学生主体のボランティアだったので他大学の人たちとも関わることも多く、尊敬できる人との出会いもありました。雄勝で学んだことを忘れず、自分の大切な人だけでなく多くの人に周知していければいいと思います。

(3) ヤングリーダーズ国際研修2018in 陸前高田（事務局：岩手大学）

今年は、「防災・減災を資源とした交流と持続可能な社会」を研修テーマとし、津波災害が縁で陸前高田と姉妹都市となったアメリカ・クレセントシティの中高生を対象に、陸前高田の防災・減災資源を活用した研修を提案するため、留学生、日本人学生と一緒に考えました。研修中の使用言語は英語と日本語で、留学生・日本人学生と一緒に、防災・減災についてグローバルな視点で考える活動を行いました。



文学部 外国語学科 英語専攻 江口雅孝

東日本大震災をきっかけに姉妹都市になった岩手県陸前高田市とアメリカのカリフォルニア州クレスセントシティの中高生向け防災研修プログラムを作成することが今回の目的でした。「明日、自分が被災者と呼ばれるかもしれない」という当事者意識を持ち、災害を知り備えることの大切さを学びました。この研修に参加したことで日頃から備え、いざという時にどう行動すべきか人に言う前にまず自分ができるようになりたいと思いました。

(4) その他

福岡県や他機関との連携などで実施する活動などがあります。

③ 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害ボランティア

2017年7月5日から6日かけ、福岡県と大分県を中心とする九州北部で猛烈な雨を継続して降らせたことから、記録的な大雨となり甚大な被害が発生しました。本学も行政や他大学、NPO 団体などと連携し、学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。

- ・東峰村ボランティアセンター 2日間 延べ11名（職員4名・学生7名）
- ・うきはベース1st 24日間 延べ108名（職員16名・学生 92名）
- ・うきはベース2nd 34日間 延べ207名（職員19名・学生188名）
- ・うきはベース2018 26日間 延べ124名（職員 7名・学生117名） ※2019年2月末現在

(1)東峰村災害ボランティアセンター 宝珠山サテライト (2017.7.16 と7.17 の2日間)

7月14日に開設したばかりの本部で、運営スタッフとして活動。
活動内容：受付係、資材係、物資係に分かれて担当

(2)大学生災害ボランティア支援センター実行委員会主催 「うきはベース1st」の歩み (2017.7.22 から2017.9.18 まで)

①実行委員会運営委員

福岡県、NPO 法人ANGEL WINGS、北九州市立大学、西南学院大学

②「うきはベース1st」とは

うきは市から「ムラおこしセンター」を無料で貸与していただき、全国からボランティア活動のために来福した大学生の無料宿泊拠点として整備、また研修及び学生同士の交流などを実施。

期 間：2017年7月22日～9月18日毎日60日間

利 用 者：全国から92大学等872名

活動内容：ボランティアセンターの運営、泥出し、環境整備、ニーズ調査、交流など

(3)福岡学生災害支援実行委員会主催

①実行委員会運営委員

NPO 法人ANGEL WINGS、北九州市立大学、久留米大学、西南学院大学（福岡県は委員会メンバーではなく、助成金拠出側として後方支援）

②「うきはベース2nd」とは

「うきはベース1st」に引き続き、学生たちの夏休みが終わっても、週末に継続して活動できるよう、新しい拠点「うきはベース2nd」を設置。助成金を獲得しながら、元JA にじ山春支店に拠点を移動し活動。

期 間：2017年9月19日～2018年3月31日まで週末、祝日、長期休み

利 用 者：全国から35大学等674名

活動内容：泥出し作業、農業支援、仮設住宅支援、イベント支援、松末さいこうプロジェクト、子ども支援、交流など

③「うきはベース2018」とは

2018年度も引き続き、月2回、週末に「うきはベース2nd」で活動。

西日豪雨災害により、再度被災した朝倉市杷木地区を中心に活動を継続。地域の方々に寄り添い、交流しながら現在も活動している。

期 間：2018年4月～2019年3月

活動内容：松末地区、東林田地区、志波地区などとの交流、支援活動など

杷木復興支援ベースを通しての活動、プレーパーク活動、統合した杷木小学校での学習サポートなど



国際文化学部 国際文化学科 武藤有紀

私は昨年(2017)の8月と10月にうきはベースの活動に参加しました。九州北部豪雨から一年以上が経った今でも、実際に現地へ行くと被害の爪痕があちこちに見られ、復興の大変さを実感しました。しかし、その中でも復興へ向けて前を向いて進んでいく現地の方々の姿があり、私自身とても元気をもらいました。私は今回初めてボランティアに参加しましたが、自分を成長させる大変貴重な経験ができたと思います。今後も継続して活動していきたいです。

④ 平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）関連ボランティア

2018年6月28日から7月8日にかけて、前線や台風第7号の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、これらの影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な災害となりました。また、全国各地で断水や電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生しました。今回は、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）により、さらに被災した平成29年7月豪雨（九州北部豪雨）被災地での活動や、大学近くの百道浜海浜公園に打ち上げられた大量のゴミや流木を撤去する清掃活動を実施しました。



・百道浜海浜公園清掃 7月14日・16日（2日間） 延べ30名（職員8名・学生20名・学外2名）



経済学部 国際経済学科 高下比呂

平成30年の西日本豪雨の影響により、百道浜海浜公園に大量の流木やゴミが打ち上げられていたため、清掃活動を行いました。流木は小さなものから大きなものまでありましたが、それらを手作業で収集することは大変でした。清掃活動終了後になっても、流木などが残っていたので、まだ清掃を続ける必要性を感じました。自分の身近なところでも活動することができるということを学んだので、今回学んだことをこれからの活動に生かしていきます。

⑤ 福岡で活動する被災地支援ボランティア

学生たちは、実際に被災地の状況を見て、感じ、被災地の皆さんと交流し、活動する中で、さまざまな想いを抱いて帰ってきました。学生たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないけれど、みんなの「点」を集めれば「線」になるということを信じて活動してきました。学生たちは、東北など現地の活動だけで終わらず、福岡でできることを考え、発信しています。

福岡での復興支援活動は、まだ東北や熊本や朝倉に行ったことがない学生も参加できます。イベント当日のみの参加も可能です。まずは、自分でできることを考え、福岡で自分の「点」を残してみませんか？詳細はポラセンにお問い合わせください。

2018 年度実績

（1）被災地支援ボランティア活動報告会

（東日本大震災・九州北部豪雨）（1月16日）

2018年度東日本大震災ボランティア・九州北豪雨ボランティアで活動した学生たちが、チームごとに発表しました。先輩たちから後輩たちへ、一人ひとりの「点」がつながって「線」になっていることを実感しました。



（2）活動報告

大学チャペルで講話（活動報告）を担当しました。また福岡ベタニヤ教会、久留米教会、久留米荒木教会など日本バプテスト連盟の各教会でも報告しました。



(3) 被災地支援イベント 陸前高田戸羽太市長による講演及び交流会 (4月30日)

岩手県陸前高田市の戸羽太市長の講演及び交流会を開催しました。講演では、「困っている人がいたら手を差し伸べる、具体的に行動に移す勇気」が大切で、「自分本位ではなく、相手が必要としている支援は何かを考え、行動してほしい」など、ボランティアの本質を見つめなおす良い機会となりました。交流会では、戸羽市長をはじめ、陸前高田のサポーターズの皆さんと直接いろいろなお話をする事が出来ました。



(4) <九州北部豪雨プロジェクト> (7月5日) Remember 7.5～九州各地に想いを馳せて

九州北部豪雨から1年となる7月5日(木)図書館1階プレゼンテーションエリアにて、学生ボランティア団体「いと」のメンバーを中心に、劉雯竹宗教主事によるお祈りと九州北部豪雨災害支援ボランティアの活動報告を行い、学生・教職員約35名が参加しました。実家が被災した学生や教職員も参加し、九州各地のみなさんに想いを馳せながら、心を合わせ、共に祈りました。



(5) 平成30年度「福岡市市民総合防災訓練」(6月9日)

福岡市域に大規模地震が発生したとの想定のもと、福岡市及び防災関係機関並びに地域住民が一体となった実効性のある総合的な防災訓練において、本学の被災地支援活動について展示ブースを出しました。訓練に参加した地域の方々へNPO団体、大学生、社会福祉協議会の方々と交流しました。



(6) 宝台団地避難訓練 (11月4日)

宝台団地で開催された避難訓練に参加しました。団地のみなさんに、東北や熊本、朝倉の被災地について情報発信し、「身近なもので作る災害時お役立ちグッズ」などを紹介しました。



経済学部 国際経済学科 石崎佑磨

ボランティアで得られることの一つに、人とのつながりがあります。福岡市防災訓練ではNPO 法人の方と情報交換ができましたし、自分の活動を宝台団地でお伝えした時には阪神淡路大震災で避難所運営をされた方とお会いすることができました。僕は防災を中心に活動を進めてきましたが、このように熱意をもった多種多様な立場の人と出会える、それがボランティアの魅力ではないかと思います。



(7) はるかひまわり (4月27日～)

阪神・淡路大震災ゆかりの「はるかひまわり」絆プロジェクトに参加し、キャンパスに「ひまわり」の種を植えました。2012年度震災ボランティアに参加した先輩たちが宮城県の門脇小学校から持ち帰った種でした。毎年、ひまわりを育てることを通して、阪神・淡路大震災、東日本大震災のことを忘れずに、命の大切さについても語り続けています。

2015年は、西南学院大学のキャンパスで採取した種を広島土砂災害で被災した、安佐南区「阿武の里」花いっぱいプロジェクトに届けました。今年もキャンパスにひまわりの花を咲かせます。



(8) 西南学院大学同窓会総会：講演会

「九州北部豪雨被災地へ開く西南スピリット」(6月8日)

6月8日(金)に開催された同窓会総会の講演会で、九州北部豪雨災害支援ボランティアで活動した学生4名とボランティアセンターの副課長が、それぞれの取り組みや、活動して感じたことなどを報告しました。総会での講演を機に、同窓会では、今年度初めて、大学祭に「同窓会マルシェ」を出店しました。朝倉市のとれたての柿や梨、野菜や新米などを販売し、被災地を支援されました。支援の輪が広がっています。



経済学部 経済学科 半田悠陽

何気なく初めて現地を訪れた時にビリビリと感じた「また来て活動したい」という思いが、その後何度も私を被災地へ運びました。そこで仲間と真剣に活動してきたことは私の宝です。同窓会総会の話を聞いた時には、「これまで活動してきたことと被災地の今を私が伝えたい」という思いが自然にあり、発表できてとても嬉しかったです。新入生の皆さんも一度、うきはベースに来てみてください！

(9) 平成30年7月豪雨(西日本豪雨)支援キャンパス内募金

(学生ボランティア団体：7月17日～27日)

学生ボランティア団体「いと」の呼びかけで、各学生ボランティア団体が集まり、キャンパス内(チャペル前・生協前・クロスプラザ前)で募金活動を実施しました。声をかけてくださった方やチラシを手にとってくださった方など、その一つひとつが学生たちにとっても大きな励みとなりました。ご協力いただきました皆さまへ心から感謝いたします。

<募金額>23,191円

<ボランティア団体>

いと、OPEN、Think & Act、ワークキャンプ部
S I E C (西南国際教育協力隊)、学生有志



文学部 外国語学科 英語専攻 井手紗雪

「少しでも力になりたい」という思いを募金で集められたら！とサークルで参加しました。今回の目に見る支援活動は人の温かみを改めて感じる事ができ、とても価値のあるものでした。西南にはたくさんのボランティア活動があります。募金は、何かしてみたいという気持ちがあればできるのではないのでしょうか。(機会を逃さずに！)ボランティア活動を楽しんで下さい！

(10)夏休み子ども防災教室 in 西南学院大学 (8月8日・9日)

UR都市機構九州支社と連携し、団地に住んでいる子どもたちを大学に招き本学学生が防災について伝え、一緒に楽しみながら学ぶイベントを開催しました。キャンパスツアーや防災教室、身近なものを使って作る防災グッズの工作などを行いました。

《小学生の感想》

- ・自然におこることなのでいつくるかわからないからおしえてもらってよかったなと思いました。
- ・防災グッズは身近にある物でかんたんに作れたので、学校でも、広めたいです。
- ・たのしかったです。教室なども大きかったです。



国際文化学部 国際文化学科 高橋真由

防災教室の開催準備にあたり、私たち子どもたちと一緒に防災に対する知識を一から学び直し、勉強することができました。今回のイベントによって子どもたちは災害をより身近に感じ、自分の身は自分で守るという意識を高めることができたと思います。また、防災グッズ作りやキャンパスツアーもとても楽しんでくれたようで、また来年も参加したい！という声が聞けて嬉しかったです。

(11)大学祭にて模擬店出店 (11月15日～18日)

模擬店では、熊本名物の太平燕や岡山名物のきび団子、手作りで作ったアクセサリーや小物なども販売しました。大学祭には、地域の方々や学生たちの家族や友人、お世話になった方々も足を運んでくださいました。売上の一部を被災地に募金しました。



(12)被災地にクリスマスカードを贈ろう (被災地へ思いを届ける！)

2011年冬から、毎年、手書きのメッセージを添えて被災地の方々へクリスマスカードを贈ります。活動で交流している岩手県大槌町や宮城県の牡鹿半島の方々、朝倉市の杷木小学校の子どもたちにも贈りました。また「被災地の子どもたちに、クリスマスカードを届けよう！プロジェクト」にも参加し、東北・熊本・岡山・広島・愛媛・北海道・大阪など、全国の被災地にも届けられました。



⑥ 海外ボランティア

海外ボランティア・ワークキャンプ

2003 年度から、フィリピンでワークキャンプを実施しています。日本とフィリピンの国際飢餓対策機構と連携し、同じアジアの中で違う「アジア」を体験し、地元の人たちとの交流や貧困地域で活動を行い、ボランティアマインドを育成することを目的に活動しています。

1. 活動期間：2 月～3 月の11 日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：貧困地域で活動、地元の人たちとの交流
小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15 名



文学部 外国語学科 英語専攻 岡部真輝

このワークキャンプは「貧困」に対する考え、「ボランティア」の概念など様々なものを大きく変えてくれました。ボランティアが楽しくてやりがいのあるものだと感じました。これが私にとって初めてのボランティア活動でしたが、参加して以来、様々な活動に積極的に参加するようになりました。きつと参加していなければ全く違った学校生活を送っていたと思います。「やってみなければわからない」とはまさにこのことだと思いました。

法学部 国際関係法学科 大村理智

私はフィリピンでのワークキャンプを通して、「考える力」が身につきました。活動した地域の中には貧しい所もあったので、特に「日本人として海外の人からどう見られているのか」を常に考えて行動していました。また集団でずっと活動していたので、「この集団における自分の役割は何か」というのを一瞬一瞬考えていました。日本と違う環境を見るのは、自分自身や自分自身の生活を見直すいい機会になると思います。あなたも世界に飛び出し、現地で見て、感じてみてください。

商学部 商学科 小林敬太

大学生になって何かに挑戦・本気で取り組んだことはあるのか。と自分に問いたですと2年生の私は1つとして胸を張って言えるものはなかった。そこで海外ボランティアに参加することを決意した。フィリピンでの活動では子どもたちと交流する時間が多くあった。日本に比べ物質的な面でみると確かに貧困な地域だが、毎日笑顔で活き活きと生活している子どもたちがいた。「本当の豊かさ、心からの幸せ」がそこには確実に存在していた。この貴重な経験はこれからの私の糧になる。新入生のみなさんこの機会を大切にしてほしい。

人間科学部 社会福祉学科 浅倉瑞歩

フィリピンに行くまで、私はその国に関して無知でした。気候や経済、言語などの情報すらあやふや。そんな状態で現地に飛び込む恐怖心はもちろんありました。しかし、到着した瞬間から目に入る全てが興味深く、そこで体験したこと、一緒に遊んだ子どもたちや協力してくれた仲間たちの思い出は大切な宝物になりました。ボランティアに一歩踏みだせない方たちへ、私は自分を変えたいという動機から応募し、このような貴重なプログラムに携われたことで、たくさんのものを得ることができました。今、勇気を出した過去の自分に感謝をしています。皆さんもボランティアを通して素敵な出会いがあることを願っています。

海外ボランティア支援

西南学院大学のグローバル化を進めるための方策の1つとして、海外ボランティアに参加する学生を支援するために、補助金を支給しました。2018年度の対象プログラムは、「NGO合同説明会 in 西南学院大学」に参加した団体主催のボランティア及び、スタディツアーでした。この制度を利用して、カンボジア、モンゴル、ネパール、中国、フィリピンなどで、学生たちが活動しました。

①Think & Act グループワークキャンプ

活動国：モンゴル

参加団体：NPO法人NICE

活動期間：2018年8月27日～9月10日

内容：小学校での英語の授業や施設整備、ゲームなどを通した異文化交流



文学部 外国語学科 フランス語専攻 目野いずみ

現地での活動内容は主に子どもたちへの英語教育、文化交流でした。想像以上に、私たちの準備した授業に子どもたちが興味を持ってくれ、とても楽しかったのが忘れられません。帰り際にはお手紙や絵のプレゼントをくれるなど、言葉が通じなくても、素敵な関係を築けることを学びました。又、自分の目で異文化を見て経験することは、私にとってかけがえのない財産になったと思います。

②FIWCチャイナキャンプ

活動国：中国

参加団体：FIWC九州

活動期間：2018年8月24日～9月1日

内容：ハンセン病についての啓蒙活動
インフラ整備、現地の村人との交流



人間科学部 児童教育学科 井上梨央

中国に行く前は、不安もいろいろありました。だけど、行ってみたら本当に好きになりました。だってこんなにも心優しい人がいて、よそから来た日本の若い学生の私に笑顔を向けてくれて、驚きと感動...いろいろな感情が溢れ出していました。旅行なんかじゃ分らない、未知なる経験と大きな成長がキャンプには詰まっています。あと一歩を踏み出して、行きましょう。

③カンボジアスタディツアー

活動国：カンボジア

参加団体：ボランティアプラットフォーム

活動期間：2018年8月15日～8月21日

内容：子どもたちとの交流や地雷博物館視察など



国際文化学部 国際文化学科 白石悠莉

決して裕福とは言えない生活環境のなかで、懸命に学び生きる子どもたち、その明るい笑顔に元気をもらいました。ボランティアとは、「してあげる」の一方通行ではなく双方の助け合いで成り立っているのだと思います。子どもたちに限らずカンボジアの人々はとてもフレンドリーで温かい人柄の方が多いです。自分の目で事実や現状を見ることの重要性、異文化を味わう楽しさを学びました。

⑦ 学生サポーター

各市区町村の教育委員会と連携し、各学校の要望に応じて活動するプログラムで、活動する学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、活動先の各学校において主に、授業や学校行事、クラブ活動の支援をしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。

※詳細はポータルや説明会で確認してください。

4月下旬に説明会を開催する予定です。年間を通して、相談に応じています。

○西南学院大学 福岡市における学生サポーター活動実績（2004年度から開始）

年度	学校数	人数
2012年度	23校	88名
2013年度	27校	84名
2014年度	29校	85名
2015年度	24校	76名
2016年度	41校	101名
2017年度	38校	78名
2018年度	26校	81名



人間科学部 心理学科 三笠恵梨香

(中学校で活動)

私は、教室に入ることでできない生徒が通う教室で活動を行ってきました。実際に、現場の雰囲気や生徒に関わることで、今まで抱いていたイメージや考えが変わりました。回数を重ねるごとに、生徒が自身のことについて話してくれるようになったときに喜びややりがいを感じました。将来、スクールカウンセラーなどの心理職を目指す人にとって、とても貴重な経験になると思うので、ぜひ参加してみてください。

人間科学部 社会福祉学科 血海ひいな

(小学校で活動)

私は学生サポーターとして、特別支援学級の授業補助として、週に1回2時間ほど子どもたちと過ごした。特別支援学級は学年別にされておらず、10人以下で構成されている。中々思うようにいかず気が滅入ることもあったが、時間を重ねるとそれぞれの特徴が分かり「またね」と言われると嬉しい気持ちになった。軽い気持ちで始めたこととはいえ、何事にも挑戦することの大切さがわかった。

① 久山療育園重症児者医療療育センター

西南学院と同じ日本パプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障害を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。重症心身障がい者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願って設立された施設です。本学では、定期的に交流し、ボランティアやスタディツアー講習会、チャリティイベントなどを開催します。



人間科学部 心理学科 藤井 睦

後期に障害児者心理学を受講しており、元々ボランティアにも興味があったので参加しました。1日を終えて、百聞は一見にしかずだと痛感しました。この経験を通じて、新しいことをするのは怖いけれど、何事にも挑戦していこうと思いました。少しでもボランティアに興味がある方は、友達を誘って参加してみるといいと思います。

② OPEN 企画 社会福祉スタディツアー in 久山療育園

学生スタッフOPENが日帰りのスタディツアーを企画し、施設見学、利用者さんとの交流、保護者の方との懇談をしました。



③ ボランティアコーディネーションカ3級検定（11月3日）

通常は、東京と大阪で開催されている検定を本学で実施し、49 名の方が受験しました。ボランティアやコーディネーションについて、総合的に学ぶことができる貴重な機会となりました。

※ボランティアコーディネーションカとは・・・『ボランティア活動を理解し意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することで、一人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にする力』（日本ボランティアコーディネーター協会検定公式テキストより引用）と言われている。



人間科学部 心理学科 洲崎裕也

人のためになることや人助けが好きだったため大学生になって国際協力に関わっていたが、講座を受講するまで「ボランティア」という認識が曖昧であった。例えば、NPOとNGOの違いが分からなかった。しかし、この講座を受講することにより、今まで疑問だったことが解決したし、人のために活動すること楽しさがより深まった気がする。今後も、ボランティアを通していろんな人と関わっていくがこの経験が活かせればと思う。

④ ボランティアミーティング(あずみん)

『ボランティアミーティング～
「いっしょに考えよう、これからの社会貢献について」』が開催され、学生スタッフ“OPEN”のメンバーが運営スタッフとして、企画から参加しました。当日は司会やグループリーダーを担当しました。他大学の活動報告や交流を通して、新しい発見と出会いの輪が広がりました。



⑤ ノートテイク&手話講座

NPO法人MCPの方を講師にお招きし、ノートテイク&手話6時間講座を開催しました。「ノートテイク」とは、聴覚障がいを持つ学生の耳の代わりとなり、授業などその場の「音」を「文字」にして視覚的に伝えるという支援の方法で、毎年講座を開催しています。2時間講座を3回に分けて、手話も交えながら、連続講座として実施しました。今回は、視覚障害者支援に関する内容も加わり、ガイドヘルプ実践も体験しました。

1回目：障害理解

2回目：手話

3回目：ノートテイク

理論と実践をゲームを交えて、参加者同士がお互いに交流しながら、障がいを持つ人と持たない人が「相互に繋がる」とはどういうことかを楽しく学びました。



文学部 外国語学科 英語専攻 芳司真綾

学校生活で使える手話を学びたいと思い、この講座を受けました。しかしそれだけでなく、視覚・聴覚障がいについてやさサポート方法など、多くのことを実践的に学びました。口の動きだけから情報を読み取り、日ごろ私たちがどれだけ聴覚情報に頼っているのかを体験したことが一番印象に残っています。またこの講座によって交流の輪が広がり、今でも様々な面で学んだことが活きています。

⑥ NGO合同説明会

団体毎にブースを設置し、団体の活動紹介、スタディツアーやワークキャンプの紹介、NGO入門講座など、福岡のNGO活動について、一度に話を聞くことのできる貴重な機会となりました。学生の体験談なども聞くことができ、実際に学生たちが、海外ボランティアに一步踏み出して活動しました。

<参加団体>

- (1) NPO法人エスペランサ
- (2) 認定NPO法人ソルト・パヤタス
- (3) チベットを知る会
- (4) NPO法人NICE (日本国際ワークキャンプセンター)
- (5) フレンズ国際ワークキャンプ九州委員会 (F IWC九州)
- (6) (特活) NGO福岡ネットワーク (FUNN)
- (7) 国際教育交換協議会 (C I E E) 日本代表部
- (8) 一般社団法人ボランティアプラットフォーム (ぼらぷら)



⑦ 地域防災力を高める避難所運営訓練ボランティア(10月27日)

早良区では、東日本大震災や熊本地震をはじめとした近年の大規模災害の教訓を踏まえ、女性や子育て世帯の視点を活かした避難所運営訓練を、女性や未就学児（6歳未満）の割合が多い百道浜、西新、百道、高取、室見校区の5校区合同で実施し、本学学生19名が避難所設営・運営のボランティアとして参加しました。



商学部 経営学科 中野夏帆

身近なもので作ってみよう！という体験では、段ボールで簡易ベッド、レジ袋とタオルでおむつ、衣類とガムテープで生理用品を作りました。段ボールベッドは頑丈で、床に寝るよりも体に負担が少なく、熱も逃がさないため、避難所生活での健康維持に欠かせないものだと感じました。今後、避難所に行くことがあれば、得た知識を活用し、みんなが少しでも快適に過ごせるよう率先して行動したいです。

⑧ 北九州エマージェンシードリル(11月24日～11月25日)

「知識・体験・共感」をキーワードに構成されたプログラムを通じて自分と向き合い、互助の観点から防災について考えることを目的とした、『北九州エマージェンシードリル/KED 2018』が開催されました。毎年、西日本地域の大学から学生たちが集まり、大学を超えて防災・減災について学び、交流しています。



法学部 法律学科 木下 寛

私が今回、研修に参加して感じたことは、情報共有の大切さです。研修中に、自分が考えたことを共有する機会が何度もありました。自分1人の考えも、他の人の意見と照らし合わせてみると、また違ったものが見えてきます。今後は、その経験を生かし、様々な人の考えを取り入れつつ、自分の意見も発信して、物事を多面的に見れるように努力していきたいです。

⑨ ありがとう講座(6月4日・7月12日)

一般社団法人笑い文字普及協会の方を講師にお招きし、「ありがとう講座」(笑い文字入門講座)を開催しました。「笑い文字」とは、筆文字で「ありがとう」の文字の中に満面の笑顔を描く、書いて半分、渡して完成のコミュニケーションツールです。「ありがとう」を伝えることを大切にしている本学で、被災地支援活動の事前研修としても取り組みました。東北の各地やボランティア活動の時に「ありがとう」の笑い文字ハガキをお渡ししました。



経済学部 経済学科 下川祥子

私は今回、東日本大震災のボランティアに参加する事前研修としてありがとう講座を受講しました。文字の中に優しい笑顔が隠れている笑い文字、その字を眺めるだけで心がほっと落ち着き優しい気持ちになるという体験をしました。笑い文字を実際にボランティアでお世話になった方々に渡した際にとても喜んでくださっている笑顔を見た時、自分自身も笑顔が溢れていることに気づきました。笑顔の輪を広げることができる素晴らしい笑い文字に出会えたありがとう講座に参加できて、とてもいい経験になりました！

⑨ 学内ボランティア

学内各部署合同募集説明会（2018 年度実績）

大学内の各部署では、学生の皆さんに協力していただき、一緒に作り上げるさまざまなイベントや業務があります。各部署の募集するボランティアの合同説明会を実施しました。学内のボランティアでも、たくさんの学生たちが活動しています。

【参加部署】

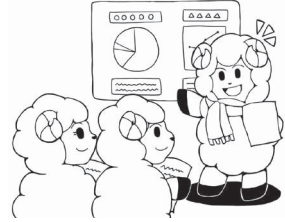
入 試 課：オープンキャンパスなど

広 報・校 友 課：Spirit（広報誌）特集意見交換など

エクステンション課：西南子どもプラザ スタッフ補助

国際センター：留学生サポーター、日本語学習チューター

ボランティアセンター：ボランティア活動全般



【内 容】

各部署のボランティア募集内容、申込み時期及び方法、ボランティア登録など



アンケートの感想から抜粋

- ・合同説明会ということで、一度にすべての部署のボランティア情報を聞くことができたので、とても効率よく良かったと思います。
- ・説明会に参加して、やりたい活動が見つかったので、とても良かったです！
- ・今まで知らなかったボランティアもたくさん紹介されていて大変参考になりました！
- ・部活をしていても空きコマなどを利用してできるボランティアもあったので、参加してみたいと思った！
- ・留学生をサポートするボランティアにチャレンジして、留学生が日本で楽しい時間を過ごせるようサポートしながら、自分自身のコミュニケーション力（英語）もスキルアップさせたい！
- ・どのボランティアも楽しそうなのでやってみたいと思った！やりたいことが沢山見つかったので、これからの学生生活が楽しみになった！
- ・一度にいろいろなボランティアを知ることができ、これまで関心のなかった分野についても知る機会となるため、とても良い説明会だと思った！

① 入試課



西南オープンキャンパスボランティア

毎年、2日間で約7,000人が来場し、西南学院大学の魅力を伝える重要なイベントです！運営スタッフの活動は、学生相談員や在学生講演会、キャンパスツアー、大学周辺バスツアーなどがあります。2日間で延べ200名もの学生が活動しています。

場所：中央キャンパス 3号館 2階

TEL：092-823-3366

Mail：adm-hp@seinan-gu.ac.jp

② 国際センター



留学生サポートボランティア

留学生の日本語の授業のお手伝いや交流行事への参加、短期間のホームステイ受け入れなど、留学生をサポートする学生を募集しています。留学生サポーターや日本語学習チューターなどがあります。

場所：中央キャンパス 3号館 1階

TEL：092-823-3346

Mail：intleduc@seinan-gu.ac.jp

③ 広報・校友課



広報誌「SEINAN Spirit」ボランティア

在学生を対象とした広報誌を年4回発行しています。広報誌に関する学生のみなさんの視点や意見を取り入れるために、企画会議、意見交換会を行っています。

場所：東キャンパス 本館 2階

TEL：092-823-3248

Mail：koho@seinan-gu.ac.jp

④ 聖書植物園



大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園の維持に必要な草取り等の活動を行っています。

活動日：毎月 第3土曜日 9:00～12:00

持ち物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9:00 5号館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加O.Kです！）

問合せ先：総務課 092-823-3201

夜間・休日 092-841-1316

⑤ 西南子どもプラザ



本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、学部、経験は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対 象：本学学生

活動時間：9：00～17：00の都合の良い時間（日曜除く）

場 所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ・おもちゃの制作や消毒・
行事の手伝い
外国人親子との会話の手助け 等

申込み方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207

⑥ 大学博物館



博物館ワークショップボランティア

博物館でワークショップを行う際に、ボランティアを募集しています。

詳細は、日程等が決まり次第、ボランティア登録メールや、博物館ホームページ等でお知らせいたします。

場所：大学博物館等、学内

TEL：092-823-4785

Mail：museum@seinan-gu.ac.jp

人間科学部 児童教育学科 松本幸子

私は博物館ワークショップボランティアをはじめいくつかのボランティア活動を通して、人と人との関わりの尊さに気が付くことができました。活動をするときには必ず、誰かと関わることになります。そしてその関係を大切にしつつ活動することが、その場の良い環境づくりになると思います。自分の行った支援に直接反応してもらえることは嬉しいです。そういった人間関係を味わえるのはボランティアの魅力だと思うし、自分の今後の進路に生かしていきたいと思います。

⑦ 障がい学生サポート

視覚に障がいのある学生を在学学生や各部署と連携しながらサポートをしています！随時、交流会や勉強会も開催しているので、“お友達になりたい方”や“サポーターに関心がある方”はお気軽にボラセンまでお問合せください。



法学部 法律学科 赤尾日菜子

1年生のときに、サポーターになったことをきっかけとして、数えきれないほどの大切なことを学びました。一見すると、あたりまえに思える隣で歩く相手と「呼吸」と「歩幅」を合わせることですが、初めは難しさを感じました。次第に、合わせられたときの喜びや幸せ、今では、意識せずとも、お互いに「呼吸」と「歩幅」が合わるほどになりました。さらに、彼女の生きる姿勢から、自分の可能性、世界は、自分次第で、どこまでも、広げられることを学びました。これから、多忙な社会に出て生きるなかでも、自分のペースだけでなく、相手のペースを考えることを大切にして、自分の可能性を信じることも、忘れずに生きていきたいです。

10 学外ボランティア

ボラセンには、学外の様々な団体からボランティアの依頼やイベント、スタディツアーなどの案内があります。例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、子ども会イベント補助、学習サポーター、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報がたくさんあります。まずは、ボラセンに来て探してみてください。



下の表は一例ですが、ボランティア活動にはたくさんの種類があります♪ 活動始めるヒントにしてくださいね♪



対 象	種 類	内 容
大人 子ども 高齢者	自然環境	海浜美化活動（ごみ集め）、街や公園の清掃活動、植樹 など
	国際交流 国際協力	ワークキャンプ、スタディツアー、難民支援（洋服回収）、留学生支援、硬貨の仕分け（国別）、日本語指導、イベントのお手伝い など
	災害支援 防 災	被災地支援、がれき・土砂の撤去、家屋の片付け、復興支援イベントの企画・実施、避難訓練の参加、募金活動 など
障がい者	イベント	着ぐるみ、受付、設営・片づけ、手拍子やかけ声、レクリエーションの補助、出し物、遊園地の付き添い、ポスター作成、介護補助 など
外国人	まちづくり	村おこし・地域おこしの活動、交流の場づくり、社会参加の協力（補助）、イベントの企画・運営 など
動物	教 育	学習指導の補助、通訳、ノートテイク、ワークショップ開催、遊び相手、レクリエーションの指導、 など
植物	動 物	小屋の清掃、お散歩、お世話、被災動物の保護活動 など

ボランティア活動保険

ボランティア活動中や行き帰りにケガをした時、また活動先の物を壊したり、人にケガをさせた場合に補償をするのが「ボランティア活動保険」です。万が一の備えや安心して活動が出来るよう、活動の前に加入してください。

※ボランティア保険は、自治体によって異なりますが、主に300円前後の掛付け金で、万が一の事故を補償してくれます。（加入日の翌日から当該年度の3月31日まで有効）

加入申込の手続き

各市区町村の社会福祉協議会



① 餅つき大会運営協力ボランティア（12月9日）

百道浜自治協議会が運営する餅つき大会で、つき手・丸め・加工のほか、大鍋（豚汁）調理や、併催する「しめ縄づくり」、献血などの運営スタッフとして活動に励みました。



法学部 法律学科 後小路啓太

百道浜小学校で行われる餅つきに参加させていただきました。百道浜小学校でのお手伝いは今回で2度目でしたが、保護者や教員の方々はとても優しく接してくれるため最後まで楽しく過ごすことが出来ました。子どもたちの無邪気な笑顔を見るだけで十分に価値のある体験だと思えました。学生は地域の方々と接する機会は少ないと思うので、より多くの人に活動に参加して貰いたいです。

② チャリティーサンタ（12月24日）

チャリティーサンタとは、「あなたも誰かのサンタクロース。」を合言葉に、12月24日のクリスマスイブにご依頼のあったご家庭に夢とプレゼントを届けに行く活動です。



経済学部 国際経済学科 松持直裕

私はチャリティーサンタ福岡支部の運営に参加しています。クリスマス当日、私たちはサンタになりご家庭の子どもたちのもとへ訪問するのですが、子どもたちの喜びと驚きでいっぱいの笑顔を見ると幸せな気持ちになります。運営スタッフはクリスマス以外の企画、運営も行なっています。ミーティングの様子はSNSにも載せているのでぜひ見に来て下さい。皆さんの参加もお待ちしております。

③ 第11回福岡YWCA日韓ユースキャンプ(8月10日～8月13日)

日韓の若い世代の相互理解を深め友情を育むこと、自分の可能性を広げることを目的としたキャンプで、今回は熊本に行き、熊本地震の経験を聞き、そこで学んだ“子どもと遊び”について、みんな考えてきました。



国際文化学部 国際文化学科 花田真朱

今回のキャンプには、子ども・韓国人・日本人が参加し、世代や話す言葉、価値観が異なるなかで情報をどう共有するのか、意思疎通の図り方が難しかったです。被災された方の心のケアについて考えることや、災害の事実を知らない人に対して、「交流する」という方法を使って正しく伝える取り組みをすることもまた、大切な支援の一つではないかとの活動を通して感じました。

④ アソビイチ（10月28日）

アソビイチとは、子どもバザーや、特大緑日アソビ、モノづくりアソビなどの、子どもたちの遊びがたくさん集まる遊びの市場です。そこで、お手伝いをしながら、小学生たちとコミュニケーションをとり、楽しく過ごしました。



人間科学部 社会福祉学科 田中向日葵

私は子ども向けに行われる「アソビイチ」というイベントにボランティアスタッフとして参加しました。ゲームの景品を直接子どもに手渡す仕事だったので、子どもたちとたくさん交流することができました。今までは子どもと関わる機会があまり無かったのですが、今回の経験を通して自信がつき、今後は積極的に関わっていきたいと思うようになりました！

⑤ 学生プレイワーカー育成講座＆わいわい広場（通年）

育成講座では、現代の子どもの育つ環境、リスクマネジメントなど、遊び論を学びます。多様な大学の学生が交流し、思いや考えを交わしあうので、単なる勉強にとどまらず、楽しいことはもちろん、貴重な人とのつながりが生まれます。わいわい広場とは、子どもたちが放課後に思いっきり遊べる遊び場で、学生プレイワーカーはここで子どもたちと心のキャッチボールを楽しんでいます。



人間科学部 社会福祉学科 中島里佳

学生プレイワーカー育成講座では、「遊び」を通して実際に子どもたちと関わる事ができます。プレイワーカーは教員のようない上下関係で子どもと接するのではなく、子どもと同じ立場になって接することを心がけています。月1回の月例会では、実習で学んだこと・感じたことや、子どもへの関わり方などについて考えを共有し合います。さまざまな大学の参加者がいるため、交流の幅が広がると共に刺激を受けることができます。

⑥ 謎解きウォーキング「アルクエスト2018」

アルクエストとは、謎解きしながら自然とウォーキングが楽しめる親子向けイベントで、「ライト謎解きコース」、「ノーマル謎解きコース」、「激ハード謎解きコース」の3つがあり、ボランティアは、謎の設置・参加賞の準備、ウォーキングの受付のお手伝い及び小学生たちとコミュニケーションをとり、イベントを盛り上げました。



人間科学部 児童教育学科 古賀明日香

私は主に受付で参加者の対応を行い、日頃接する機会の少ない小学生と触れ合うことで良い経験ができました。緊張や戸惑いもありましたが、次第にイベントを成功させたい、という思いが強くなり、自分で考えて積極的に活動に取り組みめたと思います。また、楽しくボランティア活動ができ、今後への意欲も増しました。もし少しでも興味があれば、あまり気負わずにぜひ参加してみてください。

学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ぜひ代表者へ連絡して、活動に参加してくださいね。

学生スタッフ OPEN の活動

ボランティアセンターには、学生スタッフ「OPEN」が、さまざまな形で活動しています。学生スタッフ研修や、OPEN 企画の説明会やイベントを実施しています。また、全国の大学ボランティアセンター学生スタッフが交流する学外の研修会にも参加できる機会があります。学生スタッフについては、ボラセンへ問い合わせてください。

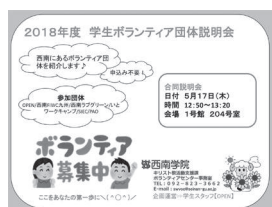
① 学生スタッフ研修

大学ボランティアセンターのスタッフと一緒に活動するボランティアセンター学生スタッフが、キャリア教育・就職支援の専門家によるブラッシュアップ・チームビルディング研修に参加しました。個人の課題をグループで分かち合い、さらに成長するためのヒントを皆で探り、最終的にはチームとしての今後の方向性を考えました。



② 学生ボランティア団体合同説明会

学生スタッフOPENの企画で学生ボランティア団体合同説明会を実施しました。ボランティアをしたい！何か楽しいことをしたい！ボランティアに興味がある人！どんなボランティアをしたいか悩んでいる人！たくさんの人と話してみたい人！一人ひとりが、団体や活動とつながっていきます。



③ カレッジ福岡との連携プログラム

福祉型大学のカレッジ福岡に通う学生と、学生スタッフOPENメンバーと一緒に百道浜清掃ボランティアを実施しました。清掃後は大学のキャンパスツアーを行いました。同世代の学生同士の交流で、お互いに気づきの多い企画となりました。



④ 大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー

全国の学生スタッフが一堂に会し、ボランティアについて、ボランティアセンターでの学生スタッフの役割について考えるセミナーに、学生スタッフOPENのメンバーが毎年参加しています。

⑤ 大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー

大学ボランティアセンターで活動している学生スタッフのうち、運営の中核を担うリーダーを対象としたセミナーで、リーダーとして何をすべきか、楽しくなるミーティングについてなど、全国の学生スタッフと一緒に考えます。

印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について

利用できる団体

・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

利用の手続き

印刷機・・・(用紙については各自で用意すること)

- ・ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。
- ・使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。
- ・使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

活動室の利用について

利用できる団体

- ・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体
- ・団体設立に向けて検討中の場合は相談すること。

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】

通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。



学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」に、2017年度は、ボランティア団体「OPEN」が選ばれ表彰されました。これは、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置付け、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。

過去の受賞団体

2017年度	OPEN
2016年度	学生YM(W)CA
2015年度	Think&Act
2014年度	いと
2013年度	手話サークルとびうめ
2012年度	Mits
2010年度	学生YM(W)CA
2009年度	西南ラブ・グリーン
2008年度	のびっこの会



(1) OPEN

活動日：毎週金曜日の昼休み
活動場所：1号館2階活動室
代表者：日高歩美（法学部 法律学科）
連絡先：s21al208@seinan-gakuin.jp

OPENとは…（ボランティアセンターの学生スタッフです^^）

O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を！*

P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に！*

E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い！*

N…Network *人が“つながる”場所を作ります！*

今までの活動：学内のボランティア（ペットボトルキャップの回収、三角柱作り、チャペル週報の挟み込みなど）、学外のボランティアへの参加、講師による研修会、サークル内での交流会、大学祭での模擬店参加



今後の活動：ボランティアの企画・運営、参加+広報活動、サークル内での交流会、他ボランティアサークルとの交流



こんな人集まれ!!：ボランティアを企画・運営したい人、ボランティアに興味がある人、ボランティア仲間が欲しい人、他サークルとの掛け持ちOK!! ぜひ一度、見学にきてみてください！

(2) のびっこの会

活動日：第2・第4土曜日の午後
活動場所：5号館
代表者：中山綾乃（人間科学部 児童教育学科）
連絡先：s21an069@seinan-gakuin.jp

のびっこの会は障がいをもった子どもたちとその兄弟児と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡－中央よりシグマソサイエティとして

承認されました。毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しています。現在は50名以上の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会を行ったりします。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生で集まって話し合いをしています。

また、活動以外にも本屋での絵本の読み聞かせやNHKでのボランティアにも参加しています。興味がある方はぜひ見学に来てください！（^o^）



(3) 学生YM(W)CA

活動日：毎週水曜日 15:30～
活動場所：1号館410教室（部会）
代表者：下野佑弥（商学部 経営学科）
連絡先：s21ag064@seinan-gakuin.jp

私たち学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に近くの公民館で様々な体験をしたり、施設

に行って、障がい者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関われることで、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。

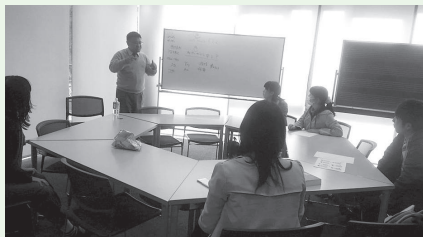


(4) 手話サークル とびうめ

活動日：毎週水曜日 4時限目
活動場所：チャペルセンター
代表者：内野舞衣（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s21ap080@seinan-gakuin.jp

私たちは、毎週水曜日4限に集まり、指導者の方のもと手話やろうあ者の生活・文化などを学んでいます。学ぶ中で難しいこともあります、毎週楽しく活動してい

ます。また、手話検定にも積極的にチャレンジしています。さらに活動日以外にも手話カフェなどに出かけ、当事者の方々と交流しています。難しいと思われるかもしれませんが、少人数のサークルなので、メンバー同士の交流も密にとることができ、楽しく学べるサークルとなっています。手話に興味がある方、参加を考えている方、ぜひ連絡をお願いします。



(5) ワークキャンプ部

活動日：毎週水曜日
活動場所：西南会館5階
代表者：中西一貴（人間科学部 心理学科）
連絡先：s21aq049@seinan-gakuin.jp

ワークキャンプ部は4大学合同（福岡女子大学、九州産業大学、中村学園大学、西南学院大学）の福祉系ボランティアサークルです。全体で約50人のメンバーが異なる

訪問先を持つ5つのグループに分かれて、月2.3回程度それぞれの施設を訪問し、子どもたちや入所者さん、高齢者の方々と交流しています。たくさんの人との出会い、日常生活では体験できないことがみなさんを待っています！私たちと一緒に大学生活を楽しみませんか？連絡をお待ちしています！！



(6) Think&Act

活動日：毎週木曜日

活動場所：代表者にお問い合わせください

代表者：江口花凜（文学部外国語学科 英語専攻）

連絡先：s21ac071@seinan-gakuin.jp

Think &Act は国際協力、国際交流、国内ボランティアなどを行う学生団体です。国際協力としては、毎年夏季休暇を利用し海外ワークキャンプに参加しています。ー

昨年はインドネシア、昨年はモンゴルへ行っており、今年もアジア圏内のワークキャンプに参加する予定です。国際交流では西南学院に来ている留学生との交流、また国内ボランティアでは北部九州豪雨の被災地域への継続支援、農作業ボランティア、幼稚園へのボランティアなど様々行っています。他にも、ハロウィンパーティー・クリスマスコンパなど季節ごとのイベントや、スポーツ大会などもあり、とても雰囲気の良いサークルです。



(7) 西南FIWC九州

活動日：不定期

活動場所：博多びおとーぶ

代表者：平井侑貴（文学部外国語学科 英語専攻）

連絡先：s21ac044@seinan-gakuin.jp

FIWC 九州は、福岡を拠点にワークキャンプというボランティアの形で国際協力・国際交流を行う学生団体です。主に所属している団体は、九州大学や西南学院大学など

です。活動を行っている国は、日本・中国・フィリピン・ネパールの4カ国で、各国によって行っている活動は様々です。長期休暇（春・夏）を使って現地で活動を行います。現地調査から資金集め、インフラ整備などの活動を、自ら運営・企画できるのが学生だけで運営しているFIWC 九州の特徴です。海外ボランティアをしたいけど、、、と不安な学生さんの相談も受け付けていますので、気軽にご連絡ください。



(8) SIEC (西南国際教育協力隊)

活動日：未定（週1回5・6限）
活動場所：西南会館会議室
代表者：河合優衣(人間科学部 心理学科)
連絡先：s21aq015@seinan-gakuin.jp



私たちSIEC（西南国際教育協力隊）は、他大学と共同で「すべての子どもたちに行き届いた教育を届けるプロジェクト」として、毎年3月と11月の年2回カンボジアに渡航し、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域で教育支援を行っています。今年からラオスでの支援も開始し、具体的には、運動会の開催、体育、音楽、図画工作等の提案授業、児童養護施設訪問を行っています。

国内では、学内や近隣の小・中学校、自分たちの母校に寄付(赤白帽子、ノート、筆記用具etc)を募っています。この寄付物は、現地で運動会や授業に参加してくれた子どもたちに参加賞として一人ずつ手渡ししています。また定期的に他大学と会議を行い、渡航に備えています。さらに、大学祭では模擬店で実際に現地で購入したカンボジアコーヒーを販売したり、教室企画でポスターを掲示したりして、私たちの活動を紹介しています。各々が他のボランティア活動に参加したときには情報共有を行い、支援とは何かを考えながら日々活動しています。

興味がある方はぜひ一度活動を見に来てください！連絡をお待ちしています！！

(9) 西南ラブ・グリーン

活動日：不定期
活動場所：福岡ヤフオク!ドーム・福岡市役所・西新商店街など
代表者：福迫瑞希(法学部 法律学科)
連絡先：s22al158@seinan-gakuin.jp

西南ラブ・グリーンは、e c o活動・地域と商店街でのボランティア活動を行っています。

福岡工業大学、中村学園大学、九州大学、福岡女学院大学、福岡女子大学など他学校

と200名のネットワークを構築して、市役所などの行政や、企業、地域、商店街と連携して活動しています。福岡ソフトバンクホークスとのドームでのクリーンアップ活動、海岸清掃、SUN SET LIVE という野外フェスや、大学祭でのゴミO推進活動、エコ食器・ゴミ分別ブース運営などのほか、学童保育施設の子どもたちへのボランティア活動や、地域商店街のお祭り運営・企画のボランティアも行っています。



(10) Pao

活動日：毎月第2または第3土曜日(子どもたちとの交流活動)、
毎月5回程度話し合い、準備(昼休み等)
活動場所：5号館106教室(子どもたちとの交流活動)、児童発達支
援センター・ゆうゆうセンター等(話し合い)
代表者：ボランティアセンターにお尋ねください
連絡先：



私たちPaoは発達障がいなどの障がいをもった子どもたちと交流する学生主体のボランティアサークルです。月に一度の子どもたちとの交流活動では“子どもたちの居場所づくり”をモットーに、運動会、クリスマス会などの季節に合わせた活動や、室内・屋外遊び、お出かけ、大学祭めぐり、クッキングと様々な活動を行っています。また、児童発達支援センター・ゆうゆうセンターの方々にアドバイスをいただきながら、障がいをもった子どもたち一人ひとりの特性を考慮し、子どもたちが楽しめることはもちろん、心に残る思い出や成功体験の機会をつくり、子どもたちの自信に繋がれるような居場所づくりを目標に活動を考えています。ほかに、年に2回学習会(ゆうゆうセンターの方々によるワークショップ形式のセミナーetc)を開き、障がいについての知識を得たり、学生間で意見交換を行ったりして、日々の活動に活かしています。

Pao最大の魅力は、学生主体であり、学年の壁がないため気軽に自分たちのしてみたいことに挑戦でき、自分たちが考えた活動で子どもたちが楽しく遊んでいる姿や笑顔を近くで見られることです!!興味がある方はぜひ一度活動に参加してみてください!体験も大歓迎です!連絡をお待ちしています!

(11) いと

活動日：毎週木曜日お昼休み
活動場所：1号館2階活動室
代表者：高橋真由(国際文化学部 国際文化学科)
連絡先：s21ar026@seinan-gakuin.jp

皆さんこんにちは!私たちは主に災害支援ボランティアを行っている学生ボランティア団体「いと」です!いは、東日本大震災をきっかけに“福岡からできる被災地

支援”を目的として2013年の春に設立された団体です。「いと」というサークル名には個人の点としての活動の一つ一つ繋げて線にする、という意味が込められています。

いとの活動は、災害時の校内募金活動やチャリティーイベントの開催、大学祭への出店など幅広いです。夏休みには大学で子どもたち向けの防災教室を開いていて、今後は地域の消防団との活動も行っていく予定です。いとでは、自分の予定に合わせて気軽に様々なボランティアに参加できる環境が整っています。大学生活で一度はボランティアに参加してみたいと思っている方!ぜひ一緒にいとで活動してみませんか?



そ の 他

社会福祉協議会(社協)

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して住める福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市区町村にそれぞれ設置されています。

※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



1

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

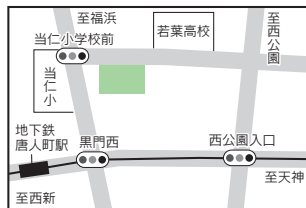
〒816-0804
福岡県春日市原町3-1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内
t e l . 092-584-3377
f a x . 092-584-3369・3381



2

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター

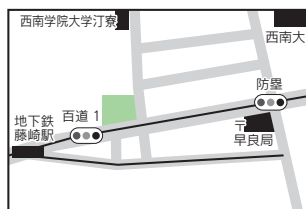
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3丁目3-39
市民福祉プラザ2階
t e l . 092-713-0777
f a x . 092-713-0778



3

社会福祉法人福岡市早良区社会福祉協議会 早良区ボランティアセンター

〒814-0006
福岡市早良区百道1-1-1
UMIBE B.L.D 1階
t e l . 092-832-7383
f a x . 092-832-7382



2018 年度ボランティアセンター活動記録（前期）

	通 年	被災地支援ボランティア 災 害 ・ 防 災	海外ボランティア 国 際 交 流	その他
4 月		- 九州北部豪雨ボランティア（4/15）※うきはベース - 陸前高田市 戸羽市長による講演会 & 交流会（4/30） 「はるかのひまわり絆プロジェクト」種植え（4/28）	- カンボジア運動会プロジェクト（通年）※寄付 BOX 設置 ※学生ボランティア団体 2017 年度海外ボランティア・ワークキャンプ（4/13）※事後研修	- 障がい学生支援（通年）【各部署連携】 - 学内各部署ボランティア募集合同説明会（4/20・4/23） - 学生サポーター前期募集説明会（4/24）【福岡市教育委員会】 - ボランティアプラットフォーム説明会（4/17） - ボランティアの授業（4/26）【社会福祉学科基礎演習】 - ボランティアプラットフォーム説明会（4/26）
5 月		- 九州北部豪雨ボランティア（5/19～20）※うきはベース - エクステンション講座 17 災害時に命を守る行動と被災者支援活動について（5/9、16、23、30）	《発行物》2017 年度海外ボランティア・ワークキャンプ報告書	- チャリティーサタ説明会（5/10）【NPO 法人チャリティーサタ】 - 学生ボランティア団体募集説明会（5/17） - 手話 & ノートテイク講座 1 日目（5/29）【MCP】
6 月	弁当容器回収（被災地支援）	- 九州北部豪雨ボランティア（6/2～3）※うきはベース - エクステンション講座 17 災害時に命を守る行動と被災者支援活動について（6/6） - 東日本大震災及び九州北部豪雨災害ボランティア（6/7）※チャペル報告 - 西南学院同窓会講演会・懇親会（6/8） - 福岡市総合防災訓練（6/9） - 九州北部豪雨ボランティア（6/16～17）※うきはベース 2018 年度 東日本大震災ボランティア募集説明会（6/21）	- 海外ボランティア・ワークキャンプ（6/5）※チャペル報告 - NGO 合同説明会 in 西南学院大学（6/13） 【（特活）】NGO福岡ネットワーク（FUNN）	- ありがとう講座 vol.1（6/4）【一般社団法人 笑い文学普及協会】 - 手話 & ノートテイク講座 2 日目（6/5）【MCP】 - 手話 & ノートテイク講座 3 日目（6/12）【MCP】 - エクステンション講座 18 子どもを共に見守る社会へ～福岡市の子ども事情（6/20、27） - 学生スタッフ研修（6/23）【（株）ラーニングリビュー】
7 月	ボトルキャップ回収（ワチ） 寄付本回収（奨学基金） 古切手回収 ハガキ回収	- 九州北部豪雨災害く祈りの会＜『～Remember 7.5～九州各地に想いを馳せて…』（7/5） - 九州北部豪雨ボランティア（7/7～8）※東峰村宿泊活動（大雨により中止） - 西日本豪雨百道浜海浜公園清掃ボランティア（7/14、16） - 西日本豪雨被災者支援募金（7/17～7/27） 【学生ボランティア団体】 - 東日本大震災ボランティア事前研修会【ハプテスト連盟】（7/12、7/24） - 東日本大震災ボランティア事前研修会【大学間連携】（7/27）	海外旅行保険と学生向け危機管理セミナー（7/11）※補助金対象者任意参加【大学国際センター】	- エクステンション講座 18 子どもを共に見守る社会へ～福岡市の子ども事情（7/4、11、18） - ありがとう講座 vol.2（7/12）【一般社団法人 笑い文学普及協会】 - ボランティアコーディネーションカ3級検定申込受付期間（7/19～9/19） 【主催：特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）】 - 百道浜区夏祭り（7/21）※学生スタッフ OPEN
8 月	文房具回収（カンボジア支援） 災害支援金（被災地支援） 学生サポーター（学習支援他）	- 九州北部豪雨ボランティア（8/11～12）※うきはベース - 夏休み子ども防災教室 in 西南学院大学（8/8、9）【UR 都市機構】 - 東北学院 石巻市雄勝町（8/12～8/16） - 東北学院 亘理郡山元町（8/19～8/23） - 東日本大震災ボランティア事前研修会【ハプテスト連盟】（8/22） - 九州北部豪雨ボランティア（8/27～30）※うきはベース - 東日本大震災ボランティア（8/29～9/3）【ハプテスト連盟】 - 活動場所：岩手県・宮城県 - ヤングリーダーズ国際研修 2018 in 陸前高田（8/31～9/6）【岩手大学】	- 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/8～8/14）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：ネパール（8/9～9/3）【F IWC】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：中国（8/10～9/1）【F IWC】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/15～8/21）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/17～8/21）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/17～8/23）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/17～8/30）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：フィリピン（8/18～9/8）【F IWC】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/22～8/28）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：中国（8/24～9/1）【F IWC】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/24～9/8）【ボラブラ】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：モンゴル（8/27～9/10）【NICE】 - 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア（8/31～9/6）【ボラブラ】	- オープンキャンパス相談員（8/4～5） - 子どもたちとの交流イベント（卓球部）（8/10）【田隈公民館】 - 福岡こどもの家引越越しボランティア（8/24）
9 月		- 九州北部豪雨ボランティア（9/6～8）※うきはベース - 九州北部豪雨ボランティア（9/15～17）※うきはベース		- 大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2018（9/4～5） - 百道浜清掃ボランティア及び大学キャンパスツアー（9/10）【カレッジ福岡】※学生スタッフ OPEN - 久山療育園園祭ボランティア（9/22）

2018 年度ボランティアセンター活動記録（後期）

	通 年	被災地支援ボランティア 災 害 ・ 防 災	海外ボランティア 国 際 交 流	その他
	10月	・東日本大震災ボランティアチャベル報告 (10/24) ・地域防災力を高める避難所運営訓練ボランティア (10/27) ・九州北部豪雨ボランティア (10/20～21) ※うきはベース ・九州北部豪雨ボランティア (10/28) ※うきはベース	・2018 海外ボランティア報告会 (10/25)	・学生サポーター後期募集受付 (10/3～10/4)【福岡市教育委員会】 ・チャリティコンサート説明会(10/22)【NPO 法人チャリティーズ】 ・ふくおか学生ボランティアミーティング (10/27)【福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」】 ※ボランティアセンター学生スタッフ
	11月	・宝台団地の避難訓練にて、活動報告 (11/4)【UR 都市機構】 ・東日本大震災ボランティア報告 (11/11) 報告場所：福岡ベタニヤ村教会 ※【バプテスト連盟】 ・九州北部豪雨ボランティア (11/17～18) ※うきはベース ・北九州エマーシェンドリル/KED 2018(11/24～25)【九州国際大学】 ・地域活動に携わる学生の集い(11/24～25)【北九州市立大学】 ・「女性の視点を活かした防災ミニブック」を活用した研修の検討会議 (11/26)【福岡市】	・秋元義彦氏による講演会 (11/15)	・ボランティアコーディネーションカ3級検定 (11/3) 【共催：特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA)】 ・大学祭出店 (11/15～11/18) ※学生ボランティア団体
	12月	・九州北部豪雨ボランティア (12/1～12/2) ※うきはベース ・京都学生FAST (12/8～12/9)【福岡県】 ※学生ボランティア団体「いと」 ・九州北部豪雨ボランティア (12/15～12/16) ※うきはベース ・「女性の視点を活かした防災ミニブック」を活用した研修の検討会議 (12/19)【福岡市】 ・被災地の仮設住宅ヘクリスマスカートの送付 (東北・朝倉) ・クリスマスカードの送付 (東北・熊本)【被災地にクリスマスカードを届けよう！プロジェクト】 ・福岡県学生消防防災サークル認定 (12/26)【福岡県】 ※学生ボランティア団体「いと」		・ふくおか県民文化祭「ふくおか文化ボランティアフォーラム2018」(12/2) ・百道浜校区餅つき (12/9) ※学生スタッフ OPEN ・マスコミ懇談会 (12/18) ・「ふくおか共助社会づくり表彰」の表彰式 (12/25)【福岡県】
	1月	・九州北部豪雨ボランティア (1/5～1/6) ※うきはベース ・「女性の視点を活かした防災ミニブック」を活用した研修の検討会議 (1/9)【福岡市】 ・九州北部豪雨ボランティア (1/19～1/20) ※うきはベース ・2018 年度 西南学院大学 被災地支援ボランティア報告会 (1/16) ※東日本大震災・九州北部豪雨	・ペイラー大学学生との交流ボランティア事前研修 (2/8、2/15、2/19、2/22)	・「街なか手助けサポートプロジェクト『たすけっと』」説明会【大日本印刷】(1/17)
	2月	・九州北部豪雨ボランティア (2/16～2/18) ※うきはベース ・福岡市社会福祉協議会災害ボランティアセンター運営マニュアル検討会議 (2/21) ・「女性の視点を活かした防災ミニブック」を活用した研修の検討会議 (2/27)【福岡市】		・学生ボランティア団体支援表彰式 Pao(2/8) ・久山療育園スタディツアー※学生スタッフ OPEN 主催 (2/19)
	3月	・被災地支援チャリティイベント「サファテ選手トークショー」(3/2) ・九州北部豪雨ボランティア (3/2～3/3) ※うきはベース ・被災地の大学生が交流する「くまもと交流プログラム」(3/7～9)【熊本学園大学】 ・東日本大震災ボランティア報告 (3/10) 報告場所：久里米教会、久里米荒本教会 ※【バプテスト連盟】 ・九州北部豪雨ボランティア (3/16～3/18) ※うきはベース ・「女性の視点を活かした防災ミニブック」を活用した研修の検討会議 (3/26)【福岡市】 ・九州北部豪雨ボランティア (3/25～3/27) ※うきはベース ・福岡市社会福祉協議会災害ボランティアセンター運営マニュアル検討会議 (3月)	・Passages【難民体験シミュレーション】(3/9) ・ペイラー大学学生との交流ボランティア事前研修 (3/7、3/12) ・ペイラー大学学生との交流ボランティア活動 (3/13～3/16)	・久山療育園チャリティコンサート (3/2) ・復興ボランティア学ワークショップ (3/5)【石巻専修大学山崎ゼミナール】 ・マスコミ懇談会 in 東京オフィス (3/5) ・《発行物》 2019 年度ボランティアガイドブック

2019年度 学院聖句

おのおの善を行って隣人を喜ばせ、
互いの向上に努めるべきです。

ローマの信徒への手紙 15 章 2 節（新共同訳）

西南学院大学 ボランティアガイドブック

2019(平成31)年4月

発行／西南学院総務部

キリスト教活動支援課 ボランティアセンター事務室

福岡市早良区西新6丁目2-9-2

TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335

E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp

URL : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>

編集／西南学院総務部

キリスト教活動支援課 ボランティアセンター事務室

印刷／株式会社 キャンパスサポート西南

S Rプリンティングセンター